

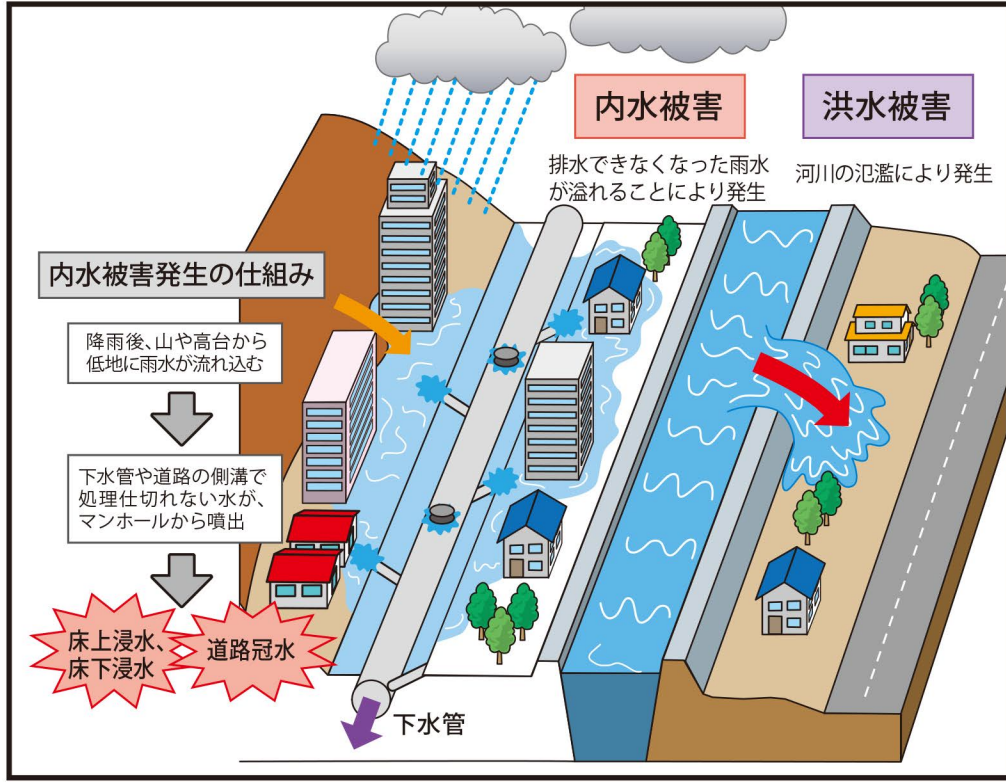
1. 内水被害と洪水被害の違い

内水とは、堤防で守られた内側の土地（人が住んでいる場所）にある水のことです。大雨が降ると、下水道や側溝、排水路だけでは降った雨を流しきれなくなることがあります。内水の水はけが悪化し、建物や土地・道路が水に浸水する被害を「内水被害」といいます。一方、洪水とは、河川の水が堤防から溢れたときに発生する浸水のことです。

大雨によって河川の水が通常より大幅に増加し、河川の水が堤防を越えたり、堤防を破って氾濫したりすることで、洪水により浸水する被害を「洪水被害」といいます。

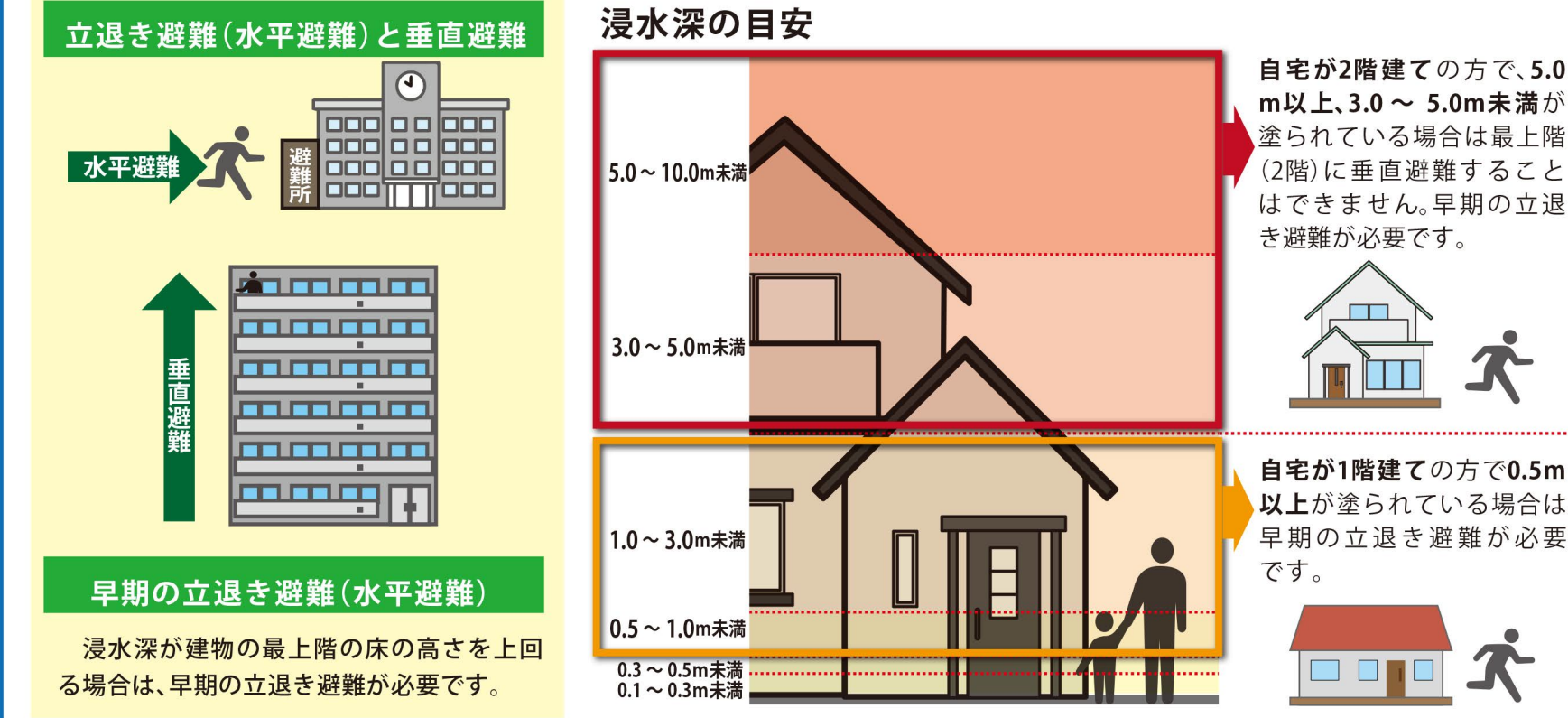
市では、「柏市内水ハザードマップ」のほかに、利根川などの河川が増水し、決壊した場合に予想される浸水範囲並びに各地区に避難場所を示した「柏市洪水ハザードマップ」を作成していますので、方が一の場合に備えてお役立てください。

(お問い合わせ:防災安全課:04-7167-1115)



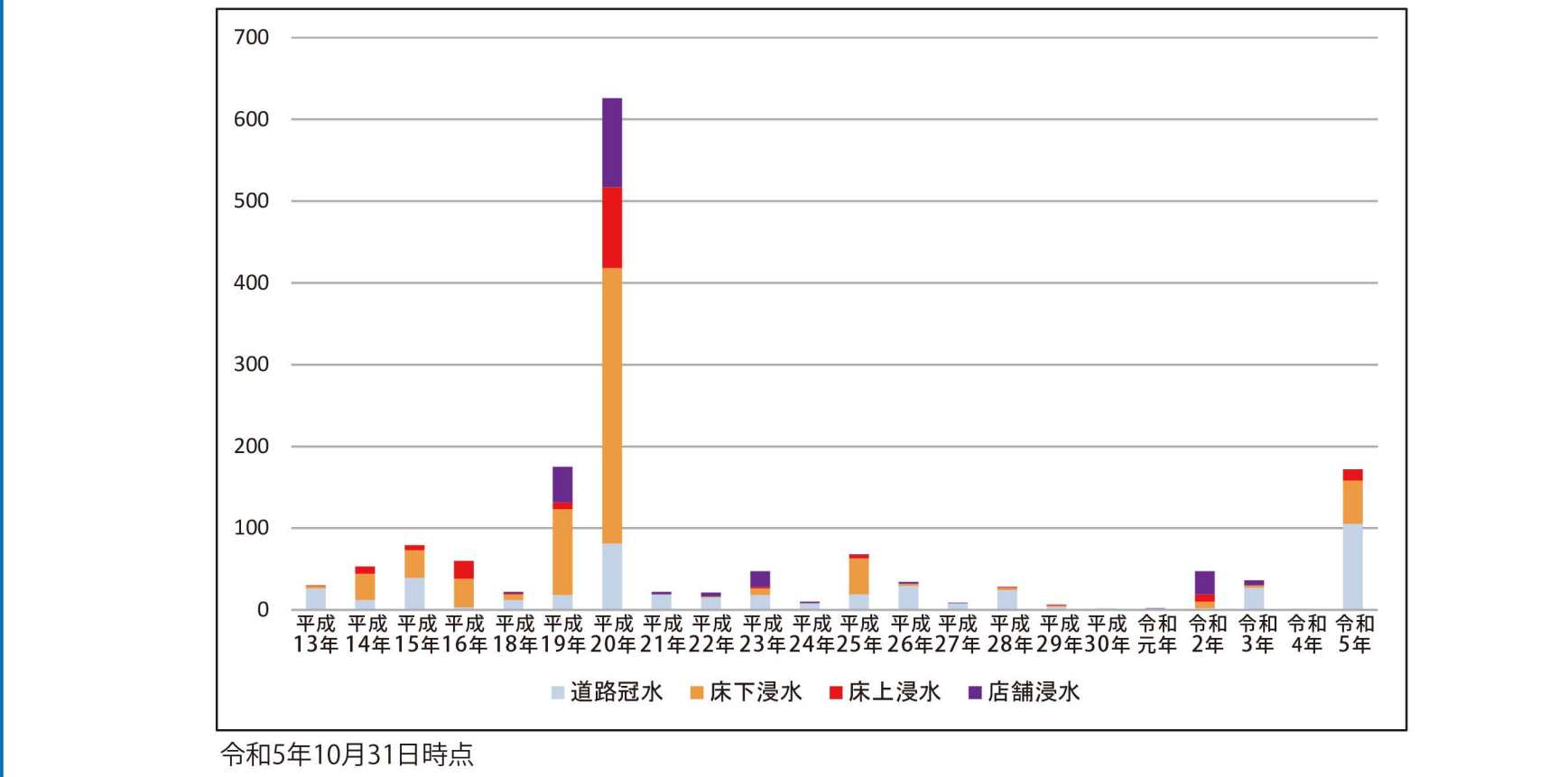
2. 状況に応じた避難行動

浸水が予想される場合は、早めに浸水想定区域の外側の避難所等へ立退き避難(水平避難)することが基本です。避難所への避難がかえって危険な場合は、近隣のより安全な場所へ避難しましょう。すでに避難経路が浸水しているなど、外出することが危険な場合は、今いる建物の上階に移動するなど、より安全な場所に避難しましょう。



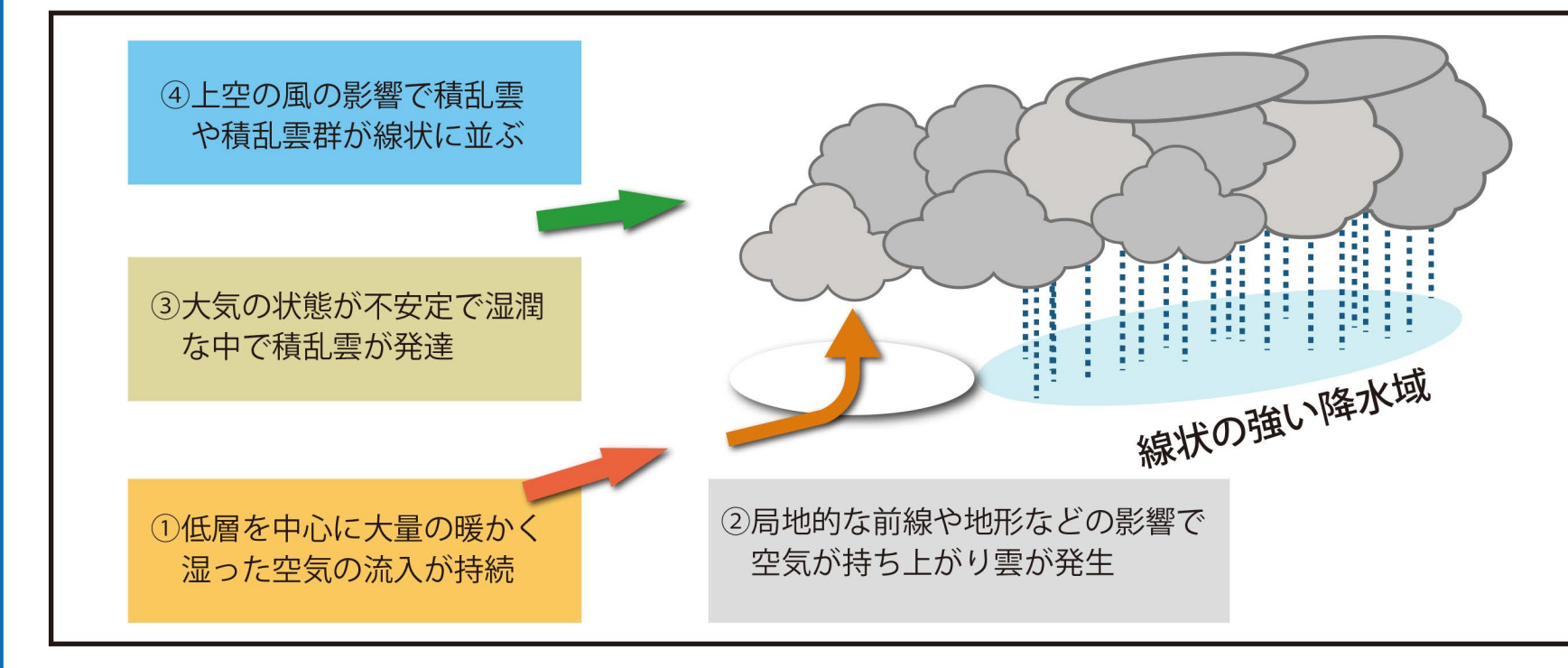
3. 過去の浸水実績

下のグラフは、平成13年より令和5年まで柏市で起きた浸水実績(道路冠水、床下浸水、床上浸水、店舗浸水)をグラフ化したものです。特に道路冠水は毎年発生しており令和5年には105件の冠水被害が起きています。



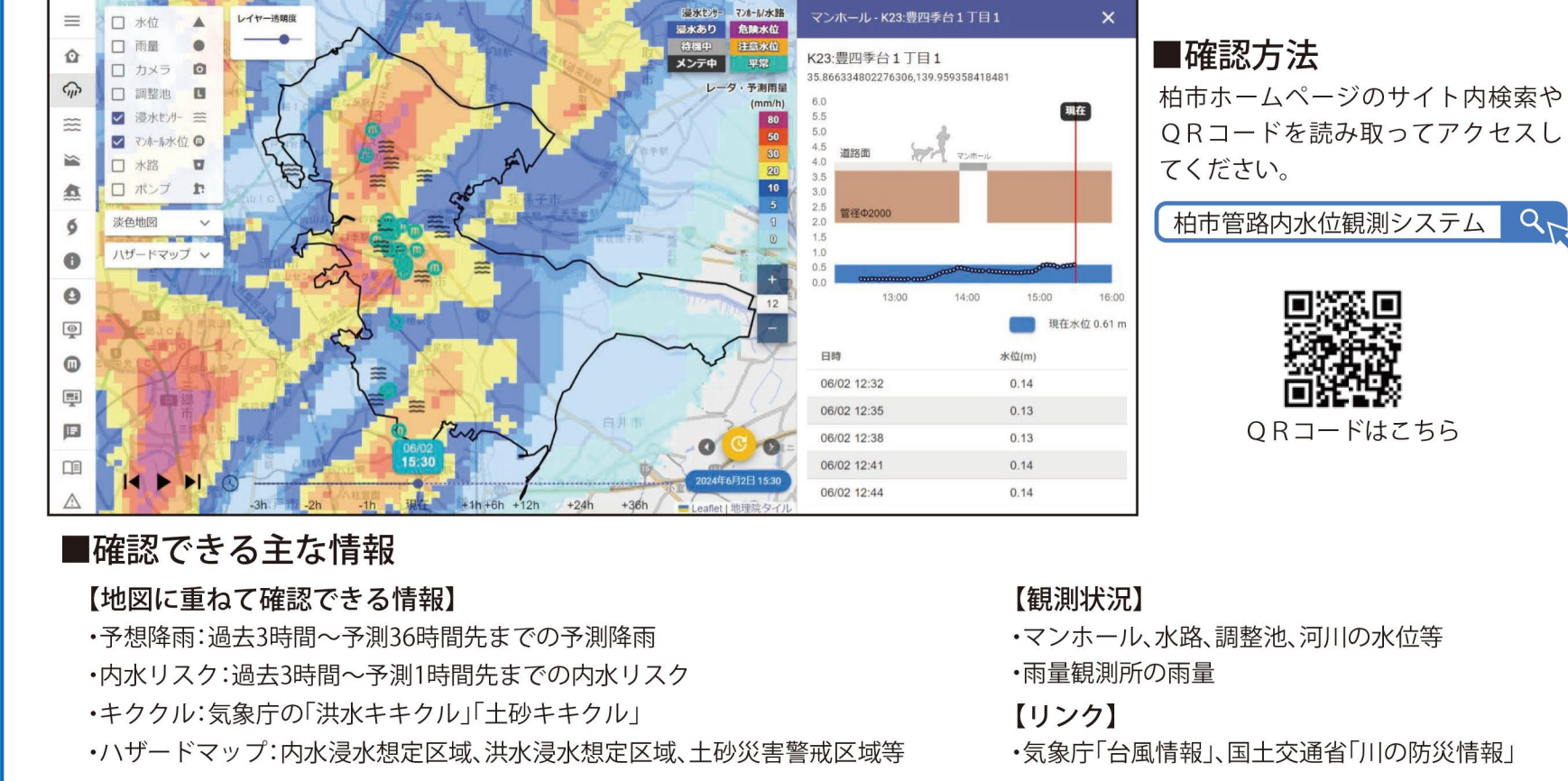
4. 線状降水帯

ここ数年、大雨や集中豪雨により大規模な水害が発生しています。豪雨の原因にはいくつかあり、その一つは「線状降水帯」です。線状降水帯とは、次々と発生する発達した雨雲(積乱雲)が列をなして組織化した積乱雲群が、数時間にわたってほぼ同じ場所で強い降水をともなう雨域をいいます。毎年のように線状降水帯による顕著な大雨が発生し、数多くの甚大な災害が生じています。



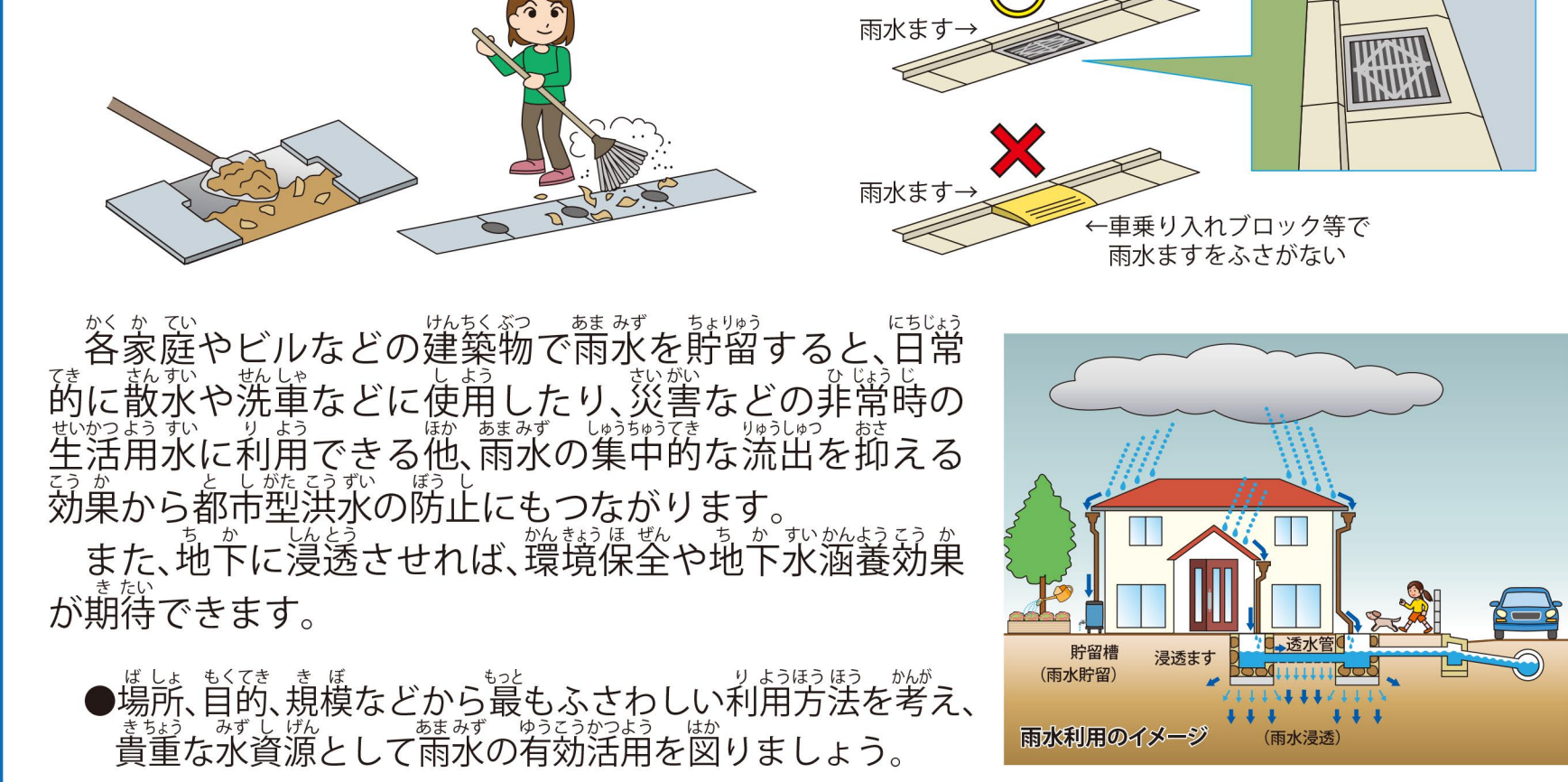
5. 管路内水位観測システム

管路内水位観測システムとは、マンホール水位、雨量予測、河川水位、浸水リスク等一元管理された情報システムです。大雨時、避難の判断に活用できる情報として、日頃から確認しておきましょう。



6. 日頃から大雨に備える -1

雨水ですが落ち葉やごみで詰まる道路冠水などの原因となります。日頃の掃除のご協力をお願いします。また、雨水ますや側溝の上に車乗入れブロックや植木鉢などを置かないようご協力をお願いします。



7. 日頃から大雨に備える -2

家庭でできる浸水対策

水のう

家庭用でみ袋など大きな袋を2~3重にし、半分程度の水を入れてきつく縛り、隙間無く並べます。ダンボールへ入れることで強度が増し、積み重ねて使えます。

ポリタンク・フランターとシート

対油用のポリタンクや土の入ったフランターなどに水を入れ、ブルーシートやレジャーシートの上に並べて置き、シートで巻き込んで使用します。

止水板

出入り口などへ長めの板を立て、固定します。

柏市止水板設置工事補助金について

市では令和5年度から、柏市止水板設置工事補助金の交付制度を開始しました。詳しくは土ま部河川排水課(TEL:04-7167-1404)までお問い合わせください。

防災訓練に参加しましょう

災害時、被害を最小限に抑えるためには、一人ひとりが災害に対する知識を身につけ、いざというときに確かな行動をとることが重要です。また、日頃の災害に対する備えは日頃の防災意識や、防災訓練の体験によって培われます。そのために、市の防災訓練に参加することが望まれます。

柏市 浸水継続時間 内水ハザードマップ

